

令和4年度県立大師高等学校 不祥事ゼロプログラムの実施結果・検証等

○ 目標、行動計画、実施結果・検証 等

① 生徒に対するわいせつ、セクハラ行為の防止

目標	生徒への言動に際して、社会通念や相手の存在を常に考慮に入れて生徒に対応するとともに、自らの言動を振り返り適切な支援・指導を行う。	
	行動計画	実施結果・検証
	○生徒指導において常に複数人数対応を基本とした指導体制を組む。 ○同僚性を高め率直で綿密な意見交換が日常的に行われる職場をつくり、生徒への言動について相互にチェックする。	○指導として行われる場面では、複数人対応を基本とした体制を組むことができた。 ○昨今の情勢を踏まえ、日常会話等においても更なる意識改革を充実していく必要がある。

② 体罰、不適切な指導の防止

目標	積極的に職員間の情報共有を行うことで、生徒理解を深め、生徒および保護者からの信頼を損なうことのないよう、特性や置かれた状況に適切な指導・支援を行う。	
	行動計画	実施結果・検証
	○積極的に職員相互のコミュニケーションをとることで、生徒理解を深め、保護者と協力しながら、指導・支援にあたる。 ○生徒が様々な状況に置かれていることを意識し、人権に配慮した指導計画を立てる。	○学校全体として、生徒が様々な状況に置かれていることを意識した指導が定着しつつある。 ○上記①と合わせて、新着任者の研修をより充実させていく。

③ 職場におけるハラスメント行為の防止

目標	パワハラ・セクハラ・モラハラの無い職場づくりに努め、他人を尊重し、人権に配慮した職場とする。	
	行動計画	実施結果・検証
	○職員が一人で抱え込むことがないように、相談しやすい職場体制をつくる。 ○管理職による個人面談を実施して、職場におけるハラスメントの防止を徹底させる。	○グループ・年次リーダーを中心に、同僚性の実践を深めることができた。 ○管理職に相談しやすい環境づくりを、管理職自らが実践していく。

④ 効果的なチェック体制に基づく業務執行体制の確保

目標	業務遂行上、ミスがでないようにチェック体制を確立するとともに、チェックが必要な場合は、項目を決めてから組織的に行う。	
	行動計画	実施結果・検証
	○現状のチェック体制を見直し、無駄な作業がないかを確認する。 ○チェック体制には、日程を考慮して、締め切りを決めてから、計画的に実行する。	○概ね計画的な業務の遂行をすることができた。 ○チェック体制充実の前段階として、業務の改善を常に意識し、実践することで、よりミスが起こらない環境づくりを行う。

⑤ 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策

目標	情報セキュリティの重要性について共通の認識をもつとともに、生徒等の個人情報を適切に管理する。	
	行動計画	実施結果・検証
	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報を漏洩しないために、職員一人ひとりが職務上得た情報を適切に管理する。 ○不正アクセス防止の観点から、ID、パスワード等を目視できる場所に保管しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○概ね重要性の認識を意識した行動が取れている。 ○今後も、多種・多岐に渡る情報化に対応できるように、DICT（大師 ICT 支援委員会）を中心に充実していく。

⑥ 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱に係る事故防止

目標	絶対に誤りの許されない各種データの扱いについて、業務マニュアルとチェック体制の整備を行い、不断の点検を実施する。	
	行動計画	実施結果・検証
	<ul style="list-style-type: none"> ○各種データの扱いについて、事故防止のための業務マニュアル、チェック体制を見直し、より良い方法を確立する。 ○業務マニュアルに基づいて、複数の担当者によるデータの確認を確実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての業務において、チェック項目を再確認してからスタートしたこと、複数の担当者で複数回チェックを実践したことで、事故防止に繋げることができた。 ○毎年、同じ意識、態度で業務に取り組んでいく。

⑦ 会計事務等の適正執行

目標	私費会計の執行については期限を厳守して遂行する。	
	行動計画	実施結果・検証
	<ul style="list-style-type: none"> ○物品を購入した場合、納入後は速やかに支払いを済ませる。 ○立替金の請求を翌日から起算して10日以内にする等の、基本的な会計ルールを常に意識し徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初以降、複数回研修を行うことで円滑な執行を実践することができた。 ○事務・グループ等、より綿密な連携を図り、更なる充実を目指す。

⑧ 公務外非行防止に繋がる法令遵守意識の向上

目標	教育公務員として、服務規程の正しい理解や各種関係法令の遵守に基づき、自らの行動を顧みて律していく。	
	行動計画	実施結果・検証
	<ul style="list-style-type: none"> ○職員一人ひとりが、教員である前に社会人として自らの言動に合理的な説明責任を負うことを自覚し、行動していく。 ○教育公務員に課せられた義務への知識と理解をより一層深めることで、法令遵守の意識を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総括教諭を中心に日常のアドバイスを怠らないため、一人ひとりの責任感の醸成に役立っている。 ○今後もバランスをたもてるよう、管理職が先頭に立ち法令遵守を実践し、日々声掛けを行いながら、指導を実践していく。

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題

本校職員は、構成上経験の浅い職員が多く在籍している。その特性を最大限に発揮した生徒支援等を実現している一方、通常対応・日常会話等における対応は、経験の有無に拘わらず意識していかなければならない。今年度は生徒対応を含め、不祥事に係る重大案件は発生しなかったが、その要因の一つにチームワークがある。毎年、複雑・多様化する学校運営・生徒支援に対して、本校の特徴を活かすべく、次年度も不祥事ゼロを目指し、全教職員一体となって実践していく。